

時ニ、此ノ如キ矛盾ト撞着トハ是ヲ一日モ放任スベカラザル人道  
上並社會上ノ重大問題デアル。此ノ觀點ヨリ吾等ハ官船乗組員ニ  
對シ即時海商法第五七八條第一項ト同一内容ノ保護制度ノ確立ト  
ソノ實施並待遇改善ヲ要望スルモノデアル。

實行方法

本決議ヲ關係政府當局ニ提出シソノ實現ヲ期スルコト

第八號議案 最低賃銀制度ノ噸數差別撤廢ニ關スル件（可決）

主 文

説明者 本部 長 田 滋 利

吾等ハ經濟上並船内能率上最低賃銀制度ノ噸數差別撤廢ヲ期ス

理 由

曩ニ吾等ガ獲得シタル最低賃銀制度ノ船舶噸數ニ依ル差別ヲ承認  
シタル所以ノモノハ當時ノ混沌タル海運界ノ情勢ガ、小型船ニ對  
シテ大型船ト同額ナル最低賃銀ヲ支給スルトキハ海運業ヲ破壊セ

シムルノ危險性アルヲ顧慮シテナサレタモノデアルガ、元來最低  
賃銀制ナルモノハ、ソノ趣旨ニ於テ、大型船ナルト小型船ナルト  
ヲ間ハズ等シク海員生活ノ最少限度ヲ保證シタルモノデアツテ同  
ジク海上労働ノ過激ナル點ニ於テ兩者ニ何等ノ區別アルベキデハ  
ナイコト勿論デアル。然カモ該制度實施以來既ニ五ヶ年餘ヲ経過  
シテ其間我國海運界モ漸ク混沌期ヲ離脱シテ整調期ニ向ヒツ、ア  
リ、特ニ近來船質改善計畫ガ着々ト實現シ遠航大型船ノ近海小型  
船ノ壓迫ガ緩和サレツ、アル事、並ニ滿洲事變ノ爲メ兵員及軍需  
品ノ輸送上中、小型船舶ノ需要盛シナリツ、アル趨勢ハ三千五  
百噸未滿ノ小型船乗組員ノ労働ヲ極度ニ強化セシメ、更ニ大型船  
ニ比シ中、小型船ノ船室及保健衛生設備ハ遙カニ不備ナル事ト相  
俟ツテ大型船乗組員以上ノ劣悪ナル船内生活ヲ送ルノ餘儀ナキニ  
陥ツテキル現狀デアル。

斯クテ今日ニ於テハ最早ヤ噸數ニヨル最低賃銀ノ差別ノ必要ヲ認